

# 小木直江津航路は国、県が責任を持って維持すべきだ 佐渡汽船株の新たな展開めぐり文教経済常任委員会で質疑

2月7日に佐渡汽船株が交通事業支援会社、「株みちのりホールディングス」（以下、みちのりHDと呼ぶ）から出資を受ける契約を締結したことをうけて、9日、市議会文教経済常任委員会が開催されました。

委員会では小田産業観光交流部長が佐渡汽船株の経営状況、今回の第三者割当増資等の概要、みちのりHDの選定理由、小木直江津航路維持確保支援金の支出等について説明し、その後、質疑が行われました。

委員などからは、「カーフェリー導入についての話は出ているのか」「9月議会で議決した支援金はどうなるのか。また、今後も支援金を出し続けていくことになるのか」「事業再生会社がバックとなると経済の論理がまず第一になるのではないのか。5者協定の内容はどのようなものになるのか」「みちのりHD代表発言には『当面』とか『できるだけ』とかいった言葉があった。航路維持が担保されることがはっきりしないことには手放して喜べない。5者協定は拘束力を持つようになるのか」「小木直江津航路は国道で、離島航路だ。本来、国と県が責任を持って維持すべきだ。今回の措置により県の出資割合が落ちた。企業論理の中

で運営される。支援の妥当性はすっきりしない」「佐渡汽船株、みちのりHDの幹部を呼んで市議会全員協議会を開くべきでないか」などの発言が相次ぎました。

これらの質疑に対して、小田産業交流部長や山田産業立地課長などが立ち、「みちのりHDは事業再生のプロだ。佐渡汽船株がその傘下に入るといって期待できると思っている」「カーフェリーについてはまだ検討には至っていない感じだ」「小木直江津航路は30年間赤字だったから、経営の厳しさは変わっていない。必要な場面で必要な支援をすることになる」「5者協定の内容については協議を始めたところだ。カーフェリーについても協定の中で生きようとしていきたい。3月31日までには協定を交わす予定だ」「みちのりHDの言葉で（指摘された）表現は私どもも気になる。ただ、複数年単位で維持することを言っておられるので、どういった経営改善をされるのか（注視していきたい）」「議会への説明は議会で判断していただくことだ。佐渡汽船株、みちのりHDを呼ぶことに異議はない」等と答えていました。

この日の質疑を聞いていて、もっと知

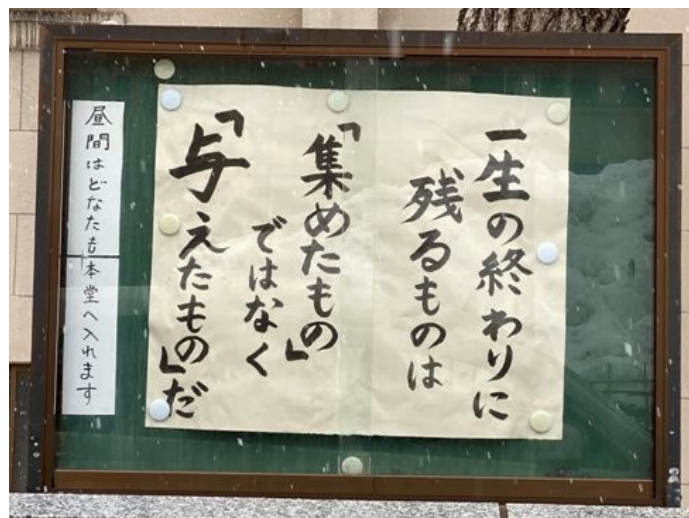


りたかったことがいくつかあります。「佐渡汽船株がみちのりHD傘下に入ること、これまでとどこが決定的に違ってくるのか」「それに伴い、上越市はどう対応したら小木直江津航路維持につながるのか」「一昨年の10月、上越市は可能な限り早期のカーフェリー再導入など4項目を条件に『あかね』売却を認めてきた経過があります。これらのことは引き継がれることはないのか」などで。これらは国会議員などとも連携して3月議会などで質問していきたいと思えます。



## 赤い屋根のお寺

冬になるといつも注目する建築物が吉川区東田中にあります。徳蔵寺のお御堂です。白い雪と赤い屋根、それに青い空になれば最高に美しい。



柿崎は浄善寺の掲示板に書かれた言葉がいま話題になっています。

「一生の終わりに残るものは『集めたもの』ではなく『与えたもの』だ」

そろりと終活をと考えている身としては納得です。（柿崎区は再掲）

【センリョウ】センリョウ科の落葉低木。漢字で「千両」と書きます。ただ、写真のセンリョウは実の色が黄色で、「キノミセンリョウ（黄実の千両）」と呼ばれています。通常、見かけるセンリョウの実は赤色です。黄色のセンリョウは西側の庭に植えると金運が上がるそうですよ（笑）。6～7月に黄緑の花を咲かせます。花言葉は、「利益」「財産」「裕福」だとか。

## はしづめ法一の活動レポート

No.2049 2022.2.20

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第六九六回

### 春の小川

昔から知っている童謡のひとつがこんなにも人間を励まし、喜ばせてくれるとは思いませんでした。

先日、大潟区にある佐藤正幸さんの実家を壇参りで訪ねたときのことでした。一月下旬に亡くなった正幸さんのお母さん、美恵子さんの遺影がハーモニカを演奏している時の姿だったことから、歌の話がどんどん広がりました。

「動きのある遺影っていいね」と私が言うと、正幸さんは、「母は婦人会の役員をやっていたときも民生委員をやっていたときも、いつもカバンのなかにハーモニカを入れていたんですよ」と言いました。美恵子さんは歌でまわりの人を楽しくすることが何よりも好きだったようです。

美恵子さんは一九二七年（昭和二）、旧吉川村に生まれました。ハーモニカは子どもの頃から学び、オルガンは二年ほどの代用教員時代におぼえられたといっています。

ある時、正幸さんと姉妹のみなさんはお母さんのオルガンの演奏を初めて聴くことになりました。仕事でオルガンを演奏しなくなって何年も経っているのに、左右の手を使い、コードとメロディをひくお母さんの姿に正幸さんはびっくりました。

そのとき演奏された曲は、高野辰之作詞、岡野貞一作曲の「春の小川」でした。そうです、「ご存じ」春の小川はさらさら行くよのあの童謡です。以来、正幸さんにとって、「春の小川」はお母さんと一緒に過ごす時に欠かせない曲となりました。

正幸さんはお母さんと同じく歌が大好きです。お母さんが高齢となり、要介護状態になってからは、ギターを持って、お母さんが入所している柿崎区芋島の介護施設を何度か訪ねてきました。

じつは、その施設には、私の叔父も入所しています。正幸さんは歌謡曲を歌うことを得意とする私の叔父とも一緒に歌を歌っ

たということでした。もちろん、その場では他の入所者のみなさんやスタッフのみなさんとも。そのときも歌のなかに必ず「春の小川」を入れていたそうです。

正幸さんがその介護施設を最後に訪れたのは今年の一月十五日、美恵子さんが亡くなる一週間ほど前のことでした。すでに体力がどんどん落ちて、呼びかけても返事がない状態になっていました。

でも、正幸さんがギターを演奏し、「春の小川は……」と歌い始めたら、眠っていると想像してお母さんが、歌が終わるまでずっと涙を流しておられたというのです。それだけじゃありません。口も動かしていません。たこのことです。おそらく一緒に歌を歌っておられたのでしょね。

音楽好きのお母さん、美恵子さんは子どもさんたちにもたっぷり愛情を注ぐ人でした。正幸さんが直江津高校三年生の時、高田公園陸上競技場で開催された大会で、四百歳と千六百歳リレーの選手として出場しました。その時、お母さんが第二コーナー付近で「マサユキ！」を連呼していた姿を正幸さんはいまでも忘れられません。

さて葬儀の日。美恵子さんと最後のお別れをする時、式場の真ん中に美恵子さんの棺を置き、参列者のなかの数人が美恵子さんへの思いを語りました。その一人、長女の博子さんは、「米山は片田の美恵子さん知っている。生まれた秋も『ホーム』の冬も」と短歌を捧げました。そして、この日もみんな「春の小川」を歌ったのです。

正幸さんの娘さんが持ち込んだキーボードに合わせた歌声は式場に響きました。

♪春の小川はさらさら行くよ 岸のすみれや れんげのはなに すがたやさしく色うつくしく……。おそらく歌声は美恵子さんの耳にも届いたはず。そして美恵子さんも、「咲けよ咲けよと ささやきながら」と歌い続けたことと思います。

## 「正善寺の魅力再発見」写真展 懐かしの昭和の農村風景いくつも

ニュースフラッシュ

正善寺工房で開催されている「正善寺の魅力再発見」写真展を観てきました。

写真として展示されていたものは、最近のものもありましたが、セピア色の懐かしい昭和の写真がたくさん出ていました。そのなかでも興味深く観たのは「上正善寺の嫁取り近迎え」の写真です。ひよっとこの面をかぶって嫁さんを迎えるなんて楽しい風習ですね。この写真をもとに「カラダとこんな感じかな」というイラストを描いてみました。

会場では頑張り屋だった元市議の森田貞一さんと久しぶりに会いました。仕事で来ておられたようです。



## 上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	2月9日(水)	2月16日(水)
上越南消防署	0.053	0.050
上越北消防署	0.040	0.050
新井消防署	0.057	0.053
頸北消防署	0.057	0.053
頸南消防署	0.067	0.060
東頸消防署	0.040	0.037
名立分遣所	0.060	0.053
高士分遣所	0.053	0.050